

はじめに

藤原真実

2017年10月23日から11月3日にかけて、パリ＝ソルボンヌ（パリ第4）大学名誉教授シルヴァン・ムナン氏およびパリ＝エスト＝クレティユ（パリ第12）大学名誉教授ジュヌヴィエーヴ・アルティガス＝ムナン氏を日本へ招聘しました。この招聘計画が始まったのは、2016年8月20日、『百科全書』・啓蒙研究会の懇親会でのことです。前々から心に懸かっていたムナン先生ご夫妻の招聘のことを、寺田元一氏（名古屋市立大学）と逸見龍生氏（新潟大学）に相談したところ、ぜひやりましょうということになり、サバティカルでパリに滞在していた井上櫻子氏（慶應義塾大学）にも打診すると、すぐに快諾の返事がありました。こうして『百科全書』・啓蒙研究会のメンバーの中で生まれた招聘計画は、さらに同研究会の前会長である鷺見洋一氏（慶應義塾大学文学部名誉教授）と金城学院大学文学部教授高橋博巳氏の協力をいただき、日本18世紀学会からも後援をいただくことになりました。その結果、シルヴァン・ムナン氏とジュヌヴィエーヴ・アルティガス＝ムナン氏は11年ぶりに来日し、本学での研究集会（10月25日）をはじめとして、名古屋大学で開催された日本フランス語フランス文学会2017年度秋季大会ワークショップ（10月29日）、そして慶應義塾大学（11月1日）において講演をされました。

「〈系列〉と〈論争〉を通して見るフランス文学」と題して本学で開催された研究集会¹では、グロワザール・ジョスラン氏の総合司会のもと、第一部ではアルティガス＝ムナン氏と大須賀沙織氏が18世紀の文学論争を、第三部ではシルヴァン・ムナン氏と吉川一義氏が「系列」をテーマに、新たな発見と知的感興に満ちた研究発表を展開されました。すべての発表はフランス語で行われましたが、本誌にはその翻訳を掲載します。

第二部のレクチャーコンサートでは、「〈系列〉、〈論争〉の観点から室内楽・声楽作品を考える」と題して、村中由美子氏（本学助教）の司会、大久保康明氏（本学

名誉教授)の解説のもと、大久保康明氏(テノール)、東京芸術大学学生大久保藍氏(ソプラノ)、本学准教授山本潤氏(フルート)、村中由美子氏(フルート)、本学大学院生鈴木麻純氏(ピアノ)が演奏を行いました。前半では18世紀の音楽論争に関係するリュリ、ラモー、クーブラン、バルゴレージなどの楽曲、後半では第三部で論じられたマルセル・プルーストにゆかりの深い作曲家レナルド・アーンの歌曲を織り交ぜるなど、研究集会の主題に有機的に関係づけられた見事なプログラムでした。残念ながらその内容を本号に収めることはできませんが、以下のURLで動画を視聴することができます。

<https://www.youtube.com/watch?v=bLMMih3wP7s&feature=youtu.be>

最後にこの場を借りて、研究集会に参加してくださいました本学名誉教授の先生方、西川直子先生、石川知広先生、石野好一先生、数ヶ月も前からレクチャーコンサートの準備をしてくださった山本潤氏、村中由美子氏、大久保藍さん、鈴木麻純さん、本研究集会の開催のために大きな尽力をしてくださったフランス語圏文化論教室の全スタッフ、特に森律子さんと石井雄介さん、同教室所属の学生と院生、科研費による招聘計画を理解し協力してくださった文系管理課会計係と学長室の皆さまに感謝申し上げます。そして何より、貴重なご研究を惜しみなく披露して研究集会の成果をいっそう深く充実したものとしてくださいました吉川一義先生、そして素晴らしい演奏と解説で感銘を与えてくださった大久保康明先生に、心から御礼申し上げます。

¹ 主催：首都大学東京人文科学研究科フランス文学教室、科学研究費基盤研究(C)「17-18世紀フランス文学における「恋愛論争」の間テクスト的研究」(研究代表者：藤原真実)。共催：科学研究費基盤研究(B)「18世紀における知識とマナー、秩序：公共知の東西比較」(研究代表者：高橋博巳)。後援：『百科全書』・啓蒙研究会、日本18世紀学会。